

飛騨市社会福祉協議会

福祉協力校だより

令和5年12月15日発行



Contents

福祉協力校とは	P 2
福祉出前講座メニュー一覧	P 3
福祉意見発表	P 4～7
飛騨市社会福祉協議会福祉のつどい ／福祉標語優秀作品	P 8

■11月23日(木)に行われた
「飛騨市社会福祉協議会福祉のつどい」の様子

福祉協力校

ふだんのくらしのしあわせ
の根を広げよう♪♪

私たちの地域で、誰もが幸せに暮らしていくためには何をしたらいいか。

ふだんのくらしの中の生活課題を解決していくためにはどのようにすればいいのか。

様々な人と共に考え、様々な体験を通して、共に生きるための地域づくりに取り組んでいます。



福祉協力校とは？

飛騨市社会福祉協議会では、市内各学校に通う児童・生徒の皆さんの社会福祉への理解・関心を深め、社会奉仕・社会連帯の精神を養い、地域福祉を推進することを目的として、市内の小学校、中学校、高等学校を「福祉協力校」に指定し、助成金を交付し、校内での福祉活動や地域に根ざした活動の実践を支援しています。



社協では福祉協力校と連携を取りながら様々な事業を行っています。

福祉のつどい
意見発表

福祉のつどい
福祉標語発表

出前講座

ボランティア
協力依頼

助成金の配分

【福祉協力校一覧】

飛騨市立古川小学校・飛騨市立古川西小学校・飛騨市立河合小学校
飛騨市立宮川小学校・飛騨市立神岡小学校・飛騨市立山之村小中学校
飛騨市立古川中学校・飛騨市立神岡中学校
岐阜県立吉城高等学校・岐阜県立飛騨神岡高等学校

出前講座・ボランティア体験 報告

5月23日(火) 神岡小学校 5年生	「福祉について」	5月23日(火) 古川小学校 4年生	「福祉について」
6月6日(火) 古川西小学校 4年生	「福祉について」	7月10日(金) 飛騨神岡高等学校 講師 湯ノ下 葉子氏	「音訳ボランティアについて」
7月28日(金) 飛騨神岡高等学校	「神岡給食サービス 体験ボランティア」	8月27日(月)	赤い羽根共同募金 募金ボランティア
9月29日(金) 神岡小学校 5年生	「視覚障がいについて、 盲導犬について」 講師 下梶 宮子氏	10月4日(水) 飛騨神岡高等学校 1年生	「高齢者疑似体験、給食サービス ボランティアについて」
10月24日(火) 神岡小学校 5年生	「高齢者疑似体験、 車いす体験」	11月22日(水) 古川小学校 4年生	「インスタントシニア体験、 車いす体験」
11月23日(木) 古川中学校 3年生	「マイプロジェクト」 赤い羽根共同募金 募金ボランティア	11月30日(木) 古川西小学校 4年生	「視覚障がいについて、 盲導犬について」 講師 下梶 宮子氏
12月5日(火) 古川西小学校 4年生	「高齢者疑似体験、車いす体験 視覚・聴覚障がい者体験」		





曾祖母から学んだこと

古川中学校三年 宮谷 心寧

私には九十歳の曾祖母と曾祖父がいます。二人とは私が小学二年生の頃から別々に暮らしています。曾祖父は私が小学校に上がる頃からずっと老人ホームにいますので、今は祖母と曾祖母の二人で暮らしています。そんな曾祖母との関りについてお話しします。

私が小さい頃、曾祖母はよく自転車で乗って散歩や買い物をしていました。私もよく自転車の後ろに乗って買い物に連れて行ってもらったことがあり、楽しかったことが今でもすごく印象に残っています。また、曾祖母は自転車で乗ってどこかへ行くことが本当に好きだったので、向町から実家のある袈裟丸まで行くこともありました。また、よく三歳離れた弟と曾祖母の部屋に行つては、三人で一緒に遊ぶこともありました。しかし、曾祖母が歳を重ねるにつれ、テンションや話が合わず、話す時も大きな声でゆつくりと話さなければならなくなり、私は曾祖母に対して苦手意識が芽生えるようになっていきました。



令和5年度 福祉意見発表応募優秀作品

飛騨市に住む中学生の福祉に対する意識を高めるとともに、福祉の心を育てることを目的に、福祉意見を募集いたしました。その中から、優秀作品をご紹介します。

飛騨市の将来を担う中学生による、学校や地域福祉、家庭、将来の夢についての意見や強い思いをぜひご覧ください。

そして、私は曾祖母と別々に暮らすようになったことをきっかけに、曾祖母の部屋へ遊びに行くことがなくなりました。その頃から曾祖母が自転車で行くことがなくなりました。外で会う回数も少しずつ減っていききました。全く話すことがなかったわけではありましたが、外で会って話しても「あれ、こちゃんかな?」「うん、そうだよ。」「大きくなったねえ。」「うん笑」という会話か、「こちゃん、寂しいでばの部屋おいでよ。」「ごめんね、宿題があるからまた今度行くね。」「嘘をつくかの二パターンでした。

そんな日々を過ごしていた私が中学校に入学した頃、曾祖母はディスプレイに行くことになりました。初めの頃は全く会っていなかったのもあり、気にも留めていませんでした。しかし最近、曾祖母がよく外で歌いながら座っているのを見ることが多くなりました。久しぶりに会った曾祖母は何も変わっていない気がしましたが、今までなら明るく、「こちゃん」と声をかけてくれたのに、かけてくれなくなっていました。きっと私が距離を置いたことで私に遠慮して話しかけなくなったのかもしれないと思いました。それ

を理解した途端、私は曾祖母に苦手意識を持っていたはずなのに何故か少し寂しい感じがありました。その時は何故そのような気持ちがあったのか分からずモヤモヤしていました。後から考えると昔から苦手というよりは関わり方がわからなかったんだなと思います。そして、今まで少し曾祖母と関わることから逃げていた自分が恥ずかしくなりました。そんな時、この作文の案内が回ってきました。私はこの作文を書きながら、「福祉って何だろう。」と思い調べてみました。

「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせにすること、それが福祉だそうです。これを調べた時に「私はあの態度で曾祖母の普段の暮らしを幸せにできていたのだろうか。」と思いました。正直、全然できていなかったと思います。でも、曾祖母はいつも幸せそうに生活しています。それはいつも施設で面倒を見てくれる介護士さんや、車で家まで送り迎えをしてくれるヘルパーさん、外で座っていたら声をかけてくれる地域の方々のおかげなんだなと思いました。

ヘルパーさんはいつも曾祖母に寄り添い、優しく声をかけ、外で会った私にも笑顔で挨拶をしてくれます。私た

ち家族が「曾祖母につきつきりになつて学校や仕事に行けない。」なんて状況にならないのは、ヘルパーさんがいてくれるからなんだなと思いました。ですが、曾祖母は私の大切な家族です。ヘルパーさんに全てを任せきりにしてはいけないと思いました。だから私は、時々ですが、学校帰りに外で会った時や家について音が聞こえた時に外に出てヘルパーさんのお手伝いをしたり、ヘルパーさんに感謝を伝えたりするようにしています。私が手伝うことでヘルパーさんと曾祖母が少しでも幸せになつてくれたらいいなと思います。

私は一人で暮らしている今でも、昔と変わらず、いつも笑顔な祖母が好きだし、尊敬しています。だからこそ、曾祖母を見習い、大切な家族として笑顔で曾祖母と接したいです。そして、私が曾祖母をもつと笑顔に、そして曾祖母の普段の暮らしを幸せにしていけるよう、支えていきたいです。



弟から学んだこと

古川中学校三年 稲垣すみれ



私の弟はたくさんアレルギーをもっています。卵や牛乳、鮭、カニ、エビなどといったたくさんの種類をもっているのですが、決まったものしか食べることができないのです。

想像してみてください。例えば、クラスの一人ひとりにクッキーが配られたとします。みんな、同じものを貰っているのに、一人の子は違うせんべいが配られます。クッキーが卵、そして乳成分を含んでいるからです。どんな気持ちになりますか。私だったら、みんなと同じものを食べられないことに、とても孤独を感じ、寂しい気持ちになります。実際に私の弟は、給食のとき、同じ状況だと言います。一人だけ違う料理を食べているみたいです。さらに、朝ごはんは、パン

がいい。」という日にも、私はチョコパン、トースト、と選べるのに対し、アレルギーを持つている弟は、ただ一種類しか選べないのです。私は、弟のこの生活を見て、とても可哀想だと思つたし、私が食べているありとあらゆる美味しいものを食べさせてあげたいと思つました。しかし、特定のアレルギー食品を食べてしまうと、弟の場合、喉にかゆみが出て、高熱が出てしまいます。この症状は人によって異なりますが、最悪の場合、死に至るケースも、なくはないのです。どれだけ美味しい食べ物としても、命に代えることはできません。私は弟に、元気に笑つて過ごしてほしい。そう思うと、食べさせたいという願いはあきらめざるを得ないのです。

食物アレルギーをもっている人が対象の食べ物避けなくてはならない。そのことは十分に理解しています。でも、そのことで本人だけが寂しい思いをしてしまうことは、避けられないのでしょうか。私は、それは違ふと思います。先程も話したように、何でも食べられる私たちに対し、弟は食べられるものが

限られています。そこで私たち家族は、アレルギー使用の食品をできるだけ食べないようにし、母はみんなと同じものが食べられるよう、さまざまな工夫をしています。例えば、牛乳や卵を使用しているクッキーだったら、病院の先生におすすめてもらったアレルギー対応のクッキーを買うことです。私たちと使用している材料は違うので、同じ味ではないけれど、クッキーという食べ物をみんなで食べることができるよう。他にも、一般的に牛乳やヨーグルトをかけるシリアル食品だったら、弟は大豆からとった豆乳をかけて美味しく食べています。このように、家族が気持ちを汲んで協力することも、アレルギーをもっている子にとっては重要なことです。

他にも、家族以外にも協力してくれているのが、給食センターの方々です。今、飛騨市の小中学校でも、弟のようにアレルギーをもっている子がたくさんいます。そんな中で給食センターの方々は、アレルギーをもっている子が食べられない料理があったとき、アレルギー食品を除去した料理「除去食」を提供してくださっています。アイスクリームやミルクプリンなど、アレルギーをもっている子が中々食べられないデザ

1トのときには、ぶどうゼリーに変える「代替食」を提供するなど、誰もが美味しいものを安全に食べられるよう、考えて出してくださっています。

アレルギー。前はこの言葉を聞くだけで「また弟だけ食べられないのかあ。」と、私も家族も、そして弟本人までもが残念だと思っていました。しかし、家族や給食センターの方々による工夫の積み重ねで、以前より食べられる料理が増え、今では弟も楽しく食事ができて

います。たくさんの方の気遣いやおもてなしは、アレルギーをもって悩んでいる子をとても幸せにする力があります。

今、この日本、そして世界では、アレルギーをもっている子が年々増えてきています。私はこのスピーチを通して少しでも理解が進み、多くの子どもたちが弟のように「おいしい!」「楽しい!」と思って食事ができるような世の中になることを願っています。

飛驒市の高齢者福祉について

古川中学校三年 松井 茜



平成十六年二月一日、二町二村が合併し、飛驒市が誕生しました。当時人口は三万人を超えていましたが、現在は二万二千人台です。この著しい人口の減少は、高齢化と関係していると考えています。飛驒市の高齢化率は、年々高くなっており、二十二年には40%ほどでしたが、二十二年後の二十四年には四十八%になると予想されます。これは、人口の約半分ほどが、六十五歳以上となっているということです。なぜ、高齢者がふえているのでしょうか。

まず、医療技術の発達があげられます。日本は他の国に比べて、技術力が高く、設備が整っているため、平均寿命が高いのです。次に、生活環境の向上です。衣食住の環境が、昔と比べると格段に良くなり、それが長寿につながっていると思います。健康で長生きできると良いのですが、年を重ねると、脳や体の機能が低下していき、いざれ介護してもらわなければならなくなります。高齢化によって起る問題を、介護施設で働く母に聞



いてみました。

最も大きな問題は、職員が不足していることだそうです。入所者は増えているのに、高齢化とともに進んでいる少子化に伴い、施設で働く職員の人手不足が起っているのです。また、介護職は給料が安く、人手不足によって、長時間働くことを余儀なくされるため、辞める人が増えているそうです。

この人手不足を解消する方法は、二つあると思います。一つ目は、短時間でも働ける人を募集することです。少しでも負担を軽減するために、短時間でも働ける人を募集すればいいと思います。

二つ目は、外国人労働者の力を借りることです。神岡町のたんぼぼ苑では、令和三年六月から資格を持ったインドネシアの方二名が勤務を始めています。彼女たちは、日本語も話せ、人手不足の救世主と言えます。中には、母国か

ら家族を呼びよせ、生活基盤を築いている方もみえます。

人は、いづれ老いていきます。いつまでも元気でいられるとは限りません。もし、福祉の手助けが必要になったら、在宅介護なのか、施設介護なのかなど、選択肢がたくさんあった方が良いと思います。そのために、飛驒市では、困ったことがあったら、すぐに相談できる窓口を整えることと同時に、お年寄りが安心して過ごせる高齢者福祉を充実していただきたいと思っています。

私は将来、看護師になりたいと思っています。そう思ったきっかけは、母との会話です。母は、家で仕事の話をよくしてくれます。母が仕事の話をするときには、必ず一言目に、「疲れた!」と言います。私が、「何で?」と聞くと、「今日、おじいちゃんが救急車で運ばれたんや。」や、「職員がコロナになったんや。」などと話してくれます。母の職場には、看護師が母を含めて二人しかおらず、他の方は介護士として勤めているからです。看護師は介護士よりも、やらなければならない仕事幅が広いので、負担が大きくなり、忙しさも増しているようです。どの介護施設も病院も、長時間労働や低賃金で、看護婦だけではなく、介護士なども人手不足は深刻さを

増しています。

私は、高校を卒業したら、都会の専門学校に通って資格を取り、経験を積んだら地元に戻ってきたいと思っています。大好きな地元、古川に帰ってきて、人手不足の福祉施設に就職し、母と



「今できる福祉とは」

山之村中学校三年 石橋 満

一緒に老人介護に携わっていききたいと思っています。治療を持っている間に、尊い命を失う人が、一人でも少なくなるように、少しでも貢献できるような人生を送りたいと思っています。

皆さん。皆さんは福祉とはなんだと思いますか。僕は、今まで福祉とは「特別なこと」だと思っていました。例えば、体の不自由な方の介護や老人ホームなどに行つて一緒に活動すること、そういうことが福祉だと思っていました。でも、福祉は「特別なこと」をすることばかりではないと思います。

僕が住んでいる山之村という地域では、運動会や文化祭などに地域の方やお年寄りを招待しています。なぜなら、自分達だけが楽しむのではなく、山之村に住んでいる全員に楽しんでもらいたいからです。そのために、運動会では見やすく涼しい場所を準備したり、椅子を用意したりします。椅子を用意するのはお年寄りの方が少しでも楽に楽しんで見てもらうため

す。僕たちが競技している姿を見て楽しんでる姿を見ると僕たちも嬉しい気持ちになります。また、会場では普段なかなか会つたり話したりできない人たちと楽しそうに過ごされています。

文化祭でも、地域の方やお年寄りの方に招待状を書いて見に来てもらっています。なぜなら運動会と同じで地域の方やお年寄りの方にも楽しんでもらいたいからです。このときもお年寄りや地域の方々の体を考え椅子を準備します。椅子を準備することには足の不自由な方やお年寄りの方々が長い時間見ても苦にならないことを意味します。これも福祉の一つだと考えます。

このように書くにあたかも僕たち



が「してあげてる」ように聞こえるかもしれませんが、実は僕たちも自信や達成感をもらっているのではないかと思います。なぜなら、僕たちが一生懸命に練習した劇や発表を見ていただいて、皆さんの拍手をいただく僕たち自身も「やつて良かったな」という喜びを感じるからです。

また、山之村にはたくさんさんの伝統文化があります。運動会の競技にも入っている「なわなない」(これは、藁をない縄を作ることです。)、 「山之村音頭」、文化祭でオープニングに披露する伝統芸能の「きつねつり」や「獅子舞」、山之村の特産品である「寒干し大根」などです。これは、昔から地域のお年寄りの方々に伝え継承されているものです。「きつねつり」や「獅子舞」、「寒干し大根」作りなどは地域の方やお年寄りの方が学校にまでいらつしやり教えてください。

るといつもより元気なように感じます。そして、このような素晴らしい技術を教えていただくことで伝統を継承することができているのです。

僕は今まで福祉というとお年寄りや体の不自由な方を大切にする活動(＝与える活動)だと思っていました。でも、教えていただいていることもたくさんあることに気づきました。お年寄りや体の不自由な方をフォローし、少しでも生活がしやすいように手助けをすることも福祉だと思うし、逆にお年寄りの方や体の不自由な方に色々なことを教わることで、別の言葉で言い換えるなら「活躍の場」を持つてもらふことで生きがいを感じてもらふのも福祉なのではないかと思えます。

僕の家は農家です。たくさんさんの野菜を作つて出荷しています。両親が作る野菜はすごく美味しく、僕も夏休みに手伝いをします。僕は、今よりももっと美味しい野菜を作りたいと思っています。僕のふるさと山之村には野菜作り名人のお年寄りがたくさんいます。だから、野菜作り名人のお年寄りの方にたくさん話を聞き教えていただきたいと思っています。それが今できる僕の福祉です。

飛騨市社会福祉協議会

福祉のつどい

を開催しました

令和5年11月23日(木)に、飛騨市文化交流センターにて福祉のつどいを開催し、約400人の市民の方々にご来場いただきました。

4年ぶりとなる、市内中学生による意見発表、市内小学生による福祉標語の紹介を通じて、地域福祉の重要性について関心を深めることを目的に開催しました。

福祉意見発表の後に、福祉映画「いのちの停車場」の上映を行いました。今はまだまだ聞きなれない「在宅終末期医療」を題材に、いつか必ず訪れる命の終わりをどのように迎えるのか考えさせられる映画でした。

福祉標語優秀作品

市内各小学校から福祉標語の募集を行いました。今後、地域を支える人材になっていただくことを期待し、優秀作品を紹介いたします。

飛騨市立古川小学校6年

小枝菜乃

大丈夫？

こまっていないか

確認を

飛騨市立古川西小学校5年

西本陽和

分かち合う

一人一人の

多様性

飛騨市立神岡小学校5年

宮前遥希

支え合い

笑顔生み出す

福祉の輪

飛騨市立宮川小学校6年

丸山治馬

あたたかな

ことばをかけあい

しあわせつくる

飛騨市立山之村小学校5年

沖田陽向

あいさつを

笑顔でされて

うれしいな

関連事業についてのお問い合わせは

飛騨市社会福祉協議会

TEL0577-73-3214

飛騨市社協 検索

〒509-4221 飛騨市古川町若宮二丁目1番66号

■URL <http://www.hidasi-syakyo.net/> E-mail : info@hidasi-syakyo.net

*この機関紙は、赤い羽根共同募金の配分により発行しています。



ひだ守ちゃん